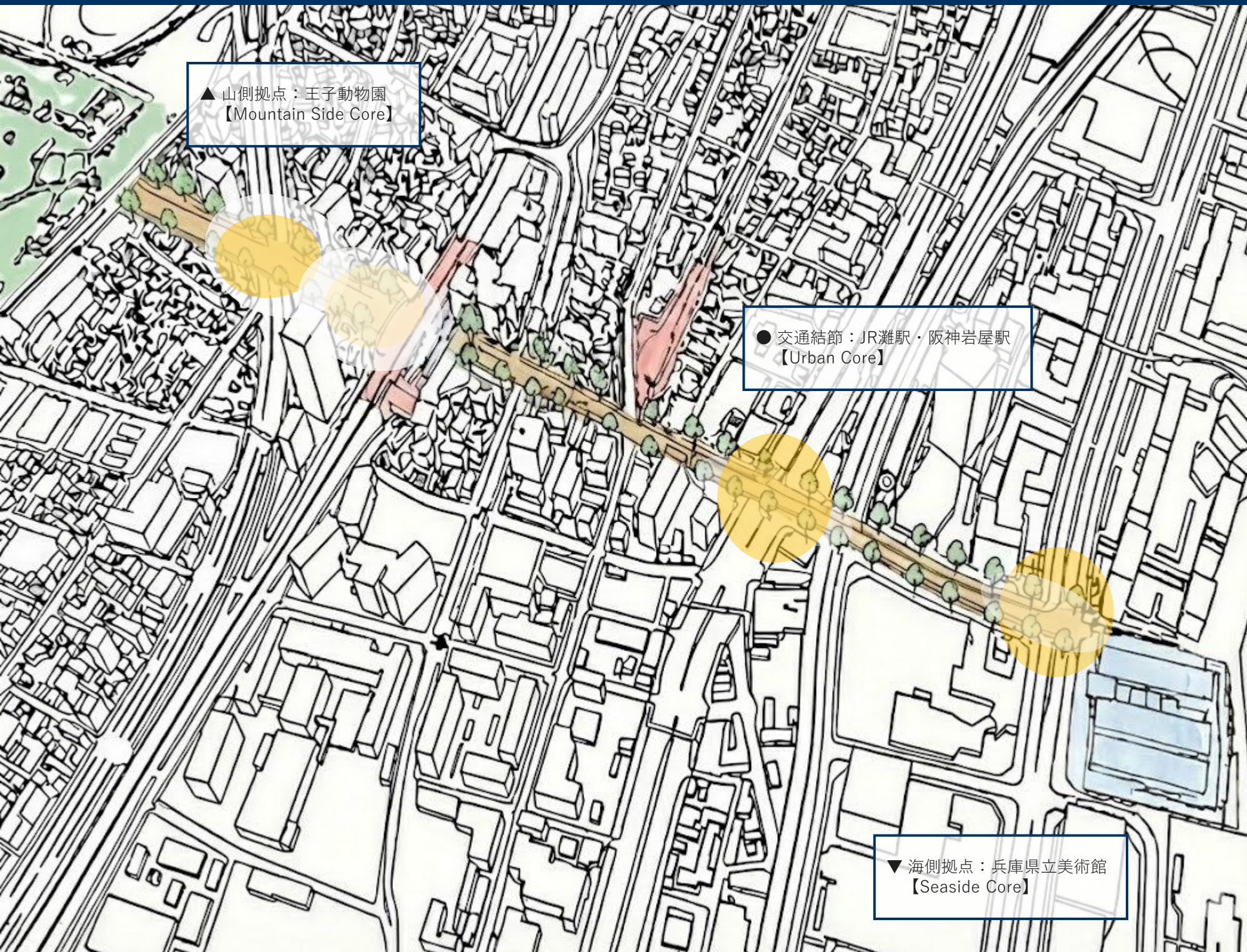


# FROM AXIS TO UNION

—文化が日常に溶け込む「回遊」の未来形—

No.1



## ◆ CONCEPT: Cultural Gradient (文化のグラデーション)

「王子公園（山）」から「HAT神戸（海）」へ。神戸特有の南北軸を、単なる移動空間から「物語のあるシーケンス」へと再編集する。

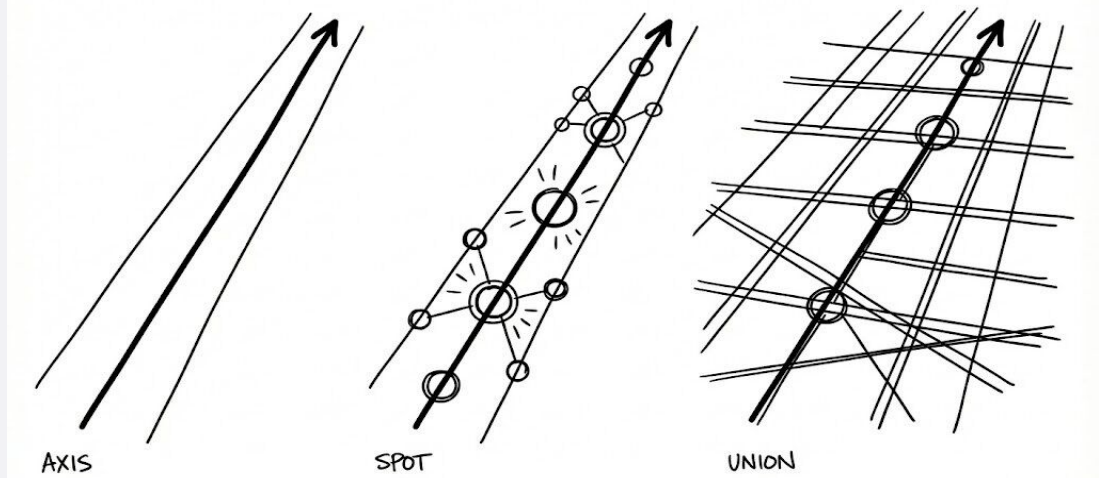
無機質な都市空間に、六甲の緑と瀬戸内の青のグラデーションを重ね合わせ点在する文化施設を有機的に縫合する、神戸が誇る「歩きたくなるミュージアムロード」の提案を行う。

#南北軸の強化

#山と海の接続

#物語のあるシーケンス

#歩きたくなる回遊路



PHASE 1: AXIS  
(軸線の強化)

県立美術館（海）と王子動物園（山）をつなぐ約1.2kmを視覚的に強調。迷いようのない明確な動線デザイン。

PHASE 2: SPOT  
(拠点の連鎖)

BBプラザ、原田の森、横尾忠則現代美術館などの既存施設に加え、新たな滞留スポットを配置。

PHASE 3: UNION  
(エリア統合)

南北の動線を、東西（阪急・JR・阪神）の交通結節点とクロスさせ、面的な賑わいへと波及させる。

## ▶ SITE DATA / 敷地概要

- ・対象：神戸ミュージアムロード（県立美術館～王子動物園）
- ・規模：南北延長約1.2km、海と山を結ぶ都市軸および沿道広場空間
- ・背景：2010年12月18日命名。養豊館長（当時）提唱・安藤忠雄氏賛同による「芸術・文化薫るまち」構想
- ・集積施設：兵庫県立美術館、横尾忠則現代美術館、原田の森ギャラリー、BBプラザ美術館、神戸文学館等

## ▶ CONTEXT / 周辺文脈

- ・転換期：王子公園再整備（2025年本格着手）、関学新キャンパス開設、王子動物園リニューアル等が進行中
- ・交通結節：JR灘駅南側「灘の森テラス」に続き、北側広場も「森の広場」として刷新予定
- ・復興象徴：南端のHAT神戸ではシスメックス神戸アイスキャンパスが開業し、新旧の都市機能が混在
- ・歴史：1936年築の土木遺産「灘駅前拱橋」や旧臨港鉄道跡地など、近代化の記憶を継承する要素が点在

## ▶ ANALYSIS / 現状分析

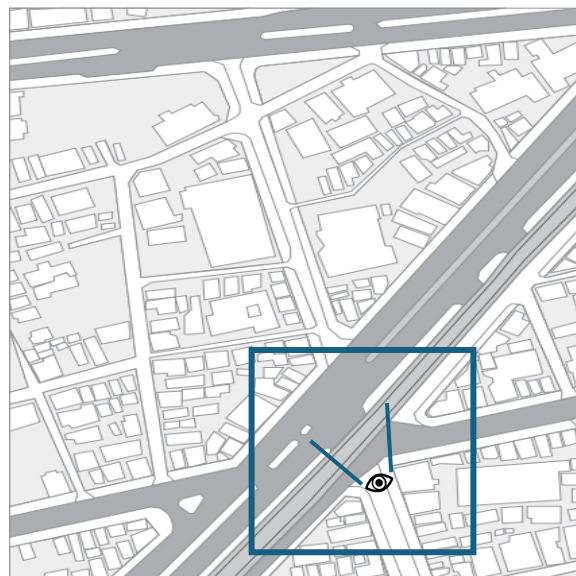
- ・北区間：歩行者優先のコミュニティ道路整備済。車両速度抑制と緑豊かな景観が特徴
- ・中区間：電線地中化された通りに店舗が並び、旧臨港鉄道遊歩道やJR/阪急/阪神の結節点が交差する回遊の要衝
- ・南区間：震災復興シンボルとして整備された広幅員道路。「美かえる」プロジェクトによる色彩演出が美術館へのゲート性を創出
- ・課題：エリアごとの個性が強い反面、南北約1.2kmを通貫するシーケンス（連続性）と滞留拠点が不足

## ▶ SOLUTION / 計画要旨

- ・時間軸：周辺開発が完了する「10～20年後の未来」を見据えた持続可能な空間モデルの提示
- ・創造性：単なる道路整備に留まらず、芸術・文化がより一層感じられ、新たな文化創造とエリア価値向上に寄与
- ・意匠性：無機質な移動空間を、人々の交流・賑わい・憩いを誘発する「歩きたくなる魅力ある空間」再編集
- ・機能性：地域住民から来訪者まで、あらゆる人々が安全・快適に利用できるユニバーサルかつ包摂的な環境デザイン

## 01 UNDER KOBE LINE ART WALL

### 阪急高架下ミュージアム「架け橋ギャラリー」

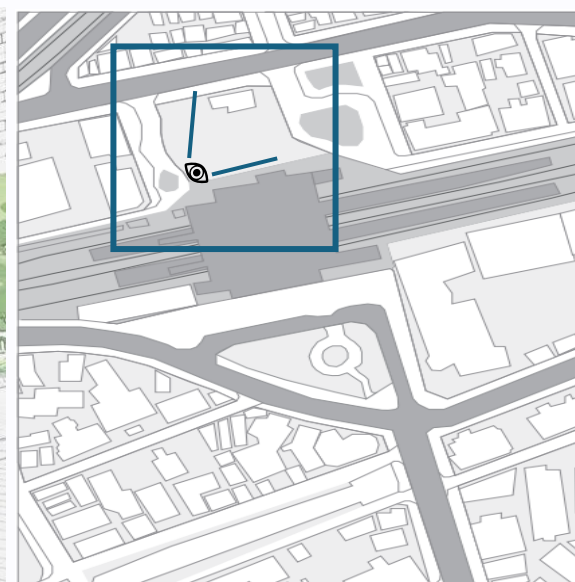


- **概要：動物たちが迎える、色彩豊かなアートゲート**  
歴史ある阪急高架下のアーチ壁面をキャンパスに見立て、北側に位置する王子動物園の動物たちをモチーフにしたダイナミックなアートを描く。土木遺産の重厚感と現代的でカラフルなデザインを融合させ、まちのエントランスを楽しく彩る。
- **効果：ワクワク感の創出とイメージの刷新**  
殺風景になりがちなガード下を、子供から大人まで楽しめるフォトジェニックな空間へ転換。ここをくぐるだけで動物園への期待感が高まり、思わず写真を撮りたくなるエリアの新たなシンボルとなる。

- **SPECIFICATION**
  - ・装飾：耐候性塗料によるミュージアムアート（壁画）またはグラフィックシート
  - ・照明：アートを鮮やかに浮かび上がらせる広角スポットライト
  - ・舗装：空間を明るく見せるベージュ系のインターロッキング

## 02 NADA STATION NORTH PLAZA

### JR灘駅北口広場「森の広場」化計画

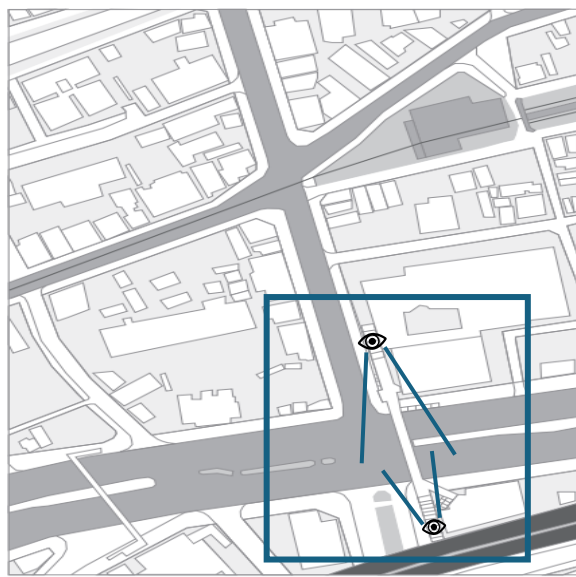
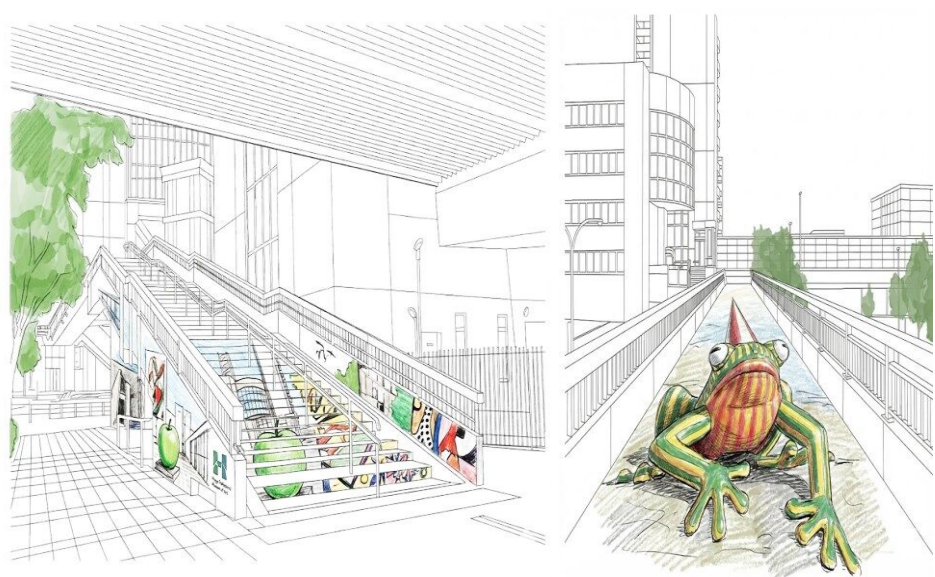


- **概要：まちの喧騒をリセットする「森のホワイエ」**  
駅を出た瞬間に美術館への期待感を高める玄関口。既存の植栽を再編集し、兵庫県産木材を使用した「アートファニチャー」をランダムに配置。駅前の単なる通過動線を人々が滞留し、木漏れ日の中で休息できる「森の広場」へと再編する。
- **効果：滞留時間の創出とゲート性の強化**  
無機質になりがちな駅前広場に有機的な素材と緑を導入することで、来訪者の歩行速度を緩め、心身を「鑑賞モード」へと切り替えさせる。地域住民の日常的な憩いの場としても機能する。

- **SPECIFICATION**
  - ・舗装：自然石乱張り（御影石など）
  - ・ファニチャー：兵庫県産スギ・ヒノキ材（防腐処理済）+ スチール脚
  - ・植栽：既存樹木活用 + 中低木の追加植樹（四季の変化を演出）

## 03 BB PLAZA BRIDGE RAIN & FROG

### BBプラザ歩道橋「雨とカエルのステップ」

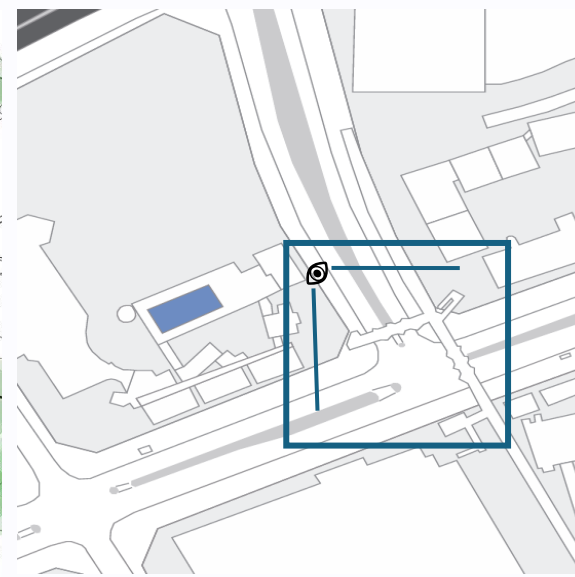
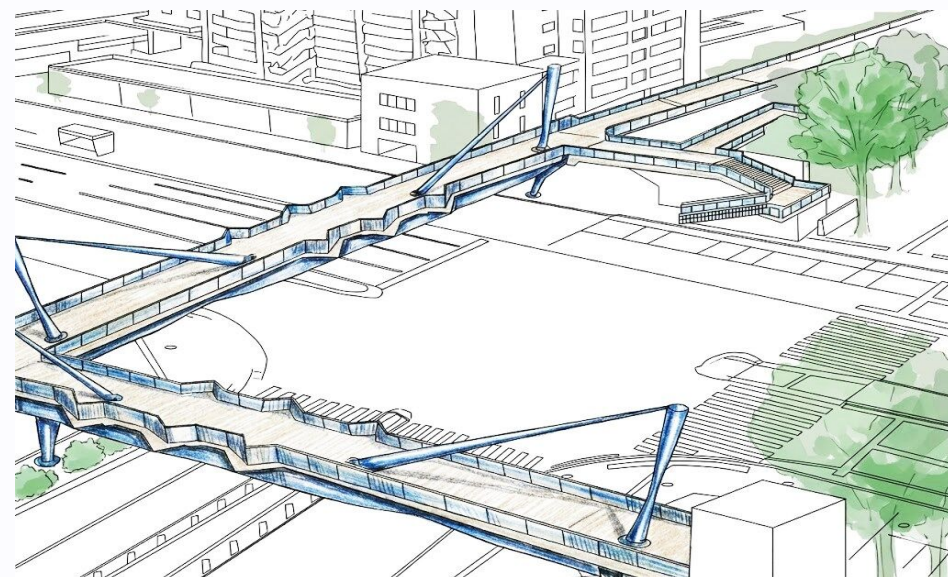


- **概要：雨と階段が魅せる「美かえる」**  
BBプラザや駅周辺の舗装には、雨に濡れると「美かえる」の柄が浮かび上がるレインアートを施す。また、広場の高低差（大階段）の蹴込み部分を活用し、下から見上げると巨大な絵が現れる階段アートを展開する。
- **効果：ネガティブ要素の転換と話題性**  
「雨天」や「階段移動」といったネガティブな要素を、発見の喜びに変える。SNS映えするフォトスポットとなり、天候に関わらず足を運びたくなる仕掛けを作る。

- **SPECIFICATION**
  - ・レインアート：特殊撥水性塗料（乾燥時は不可視）によるステンシル施工
  - ・階段装飾：滑り止め加工付き屋外用グラフィックシート
  - ・デザイン：「美かえる」カラー（緑・黄・赤）のパターン展開

## 04 MUSEUM BRIDGE EXTENSION

### 県立美術館前歩道橋「美術への寄り道」増築



- **概要：アートへ導く「空の回廊」への拡張**  
HAT神戸の既存歩行者デッキを拡張・再編し、03のアートエリア（大階段・BBプラザ）へと人々をダイレクトに導く「スカイ・プロムナード」を架ける。幾何学的なデザインデッキは、美術館の余韻をそのままに、海風を感じながら回遊できる象徴的な空中動線となる。
- **効果：視点の変化と立体的な鑑賞体験**  
この歩道橋を拡張することで、03の「階段アート」や「レインアート」への動線となる。信号や車に遮られないスムーズな移動が、まちとアートの距離を劇的に縮める。

- **SPECIFICATION**
  - ・構造：既存デッキ拡張+高耐久再生木材によるフローリング
  - ・意匠：視認性を高めるジグザグ形状の張り出しデッキ
  - ・手摺：視線を遮らない強化ガラスまたはワイヤー手摺